

## 新見公立短期大学在学生の受験動向

山中 文・藤井 敬美・上山 和子・杉本 幸枝・難波 正義

### 教育学

Trends of Entrance Examinees to Niimi College

Aya YAMANAKA Hiromi FUJII Kazuko UHEYAMA Yukie SUGIMOTO Masayoshi NAMBA  
(2004年11月10日受理)

2004年(平成16年)4月、本学では、将来構想委員会が「新見公立短期大学在学生アンケート(志望動向)」による在学生の受験志望動向に関する調査を行った。本報告は、その調査結果の集計をもとに、2002年度に本学で行われた「第1回学生生活実態調査」(学生生活委員会および自己点検・評価委員会による)集計と比較し、在学生の受験動向をまとめたものである。その結果、全学的に本学第一志望の学生の占める割合が増加していること、看護学科で国公立四年制大学志望者が増加していることが分かった。そして、公立・免許資格・専門職養成の三大動機が本学志望の特徴であることが明らかになった。

岡山県の県北に位置する本学は、全国で唯一の広域事務組合立の公立短期大学である。1980年に看護学科、幼児教育学科の二学科構成で「新見女子短期大学」として発足し、1996年に地域福祉学科を増設、1999年に「新見公立短期大学」に名称変更し、2000年に全学科男女共学とした。そして、2004年度には地域看護学専攻科を設置した。

本学が位置する阿新地域は、岡山県内の人口の2%にすぎない過疎地域であり、交通の便も良いとはいえない。しかし、公立であることや専門職養成として一定の評価を得ていることなどから、学生は西日本を中心に全国各地から集まっている。少子化が進む我国では、大学・短大を取り巻く状況がきびしく、定員割れ、閉校のニュースも続く中、本学は入試において高倍率を維持している<sup>1)</sup>。

しかしながら、近年の学生の質的变化、高校生の四年制大学志望、福祉分野の短大への進学人気

低下等の状況から察すると、今後の見通しは決して甘くない。2004年4月、将来構想委員会では、その点から本学の将来構想を視野に入れ、本学がどのような養成機関と競合しているのか、在学生は専門職養成をどの機関で受けたいと考えているのか、本学を選んだ理由はどこにあるのか等を検討するため、調査を行った。

調査は将来構想委員各位が担当し、アンケート原案は宇野文夫、入力フォームは石橋由美、上山和子が作成し、各学科学生への配付、回収、データ入力、上山和子、杉本幸枝、藤井敬美、山中文が担当した。そして、集計<sup>2)</sup>および、2002年度に行った「第1回学生生活実態調査結果」<sup>3)</sup>(以下、「2002年度調査」と略)の入学選抜に係る調査結果との比較とそのまとめを山中が担当した。そして、その他の将来構想委員である難波正義、原田信之、山内圭、矢藤誠慈郎、金山時恵、松本百合美らとともに検討を行った。

# 1. 2004年度受験動向調査概要

このたび行った調査対象、実施時期、内容、有効回答数については、以下の通りである。

## ・調査対象

2004年度4月現在在学の全学生（専攻科をのぞく）

## ・実施時期

2004年4月

## ・方 法

無記名によるアンケート調査

## ・有効回答

397（全学生411名、回収率96.6%）

### 看護学科

1年生63（63名）回収率100%

2年生58（59名）回収率98.3%

3年生72（73名）回収率98.6%

### 幼児教育学科

1年生46（53名）回収率86.8%

2年生49（52名）回収率94.2%

### 地域福祉学科

1年生55（55名）回収率100%

2年生54（56名）回収率96.4%

（括弧内は在学生数）

以下に、調査結果として、次の6点を2002年度調査と比較して述べる。

## (1)出身地

## (2)他校併願状況

## (3)第一志望校種

## (4)本学四年制化に関する在学生の希望度

## (5)本学への志望決定時期

## (6)本学への志望動機

## 2. 調査結果

### (1)在学生出身地

2004年4月時点の在学生の出身の特徴をまとめると、次のようになる。

#### ・看護学科

中国地方出身者＋兵庫県出身者＝約66%

#### ・幼児教育学科

中国地方出身者＋四国地方出身者＝約62%

#### ・地域福祉学科

中国地方出身者＝過半数

本学の地域性からみて当然のことではあるが、全学年全学科を通じて、岡山県を含む中国地方出身者の割合が多い。特に地域福祉学科1年生の割合が高く（合計56.4%）、その学年人数の過半数を占めている。なお、その他の出身地では、看護学科で兵庫県出身者の占める割合が高く（今回27.7%、2002年度調査では25.8%）、幼児教育学科で四国出身者の割合が高い（今回20.1% 2002年度20.2%）。（以上、表1参照）

2002年度調査からみた在学生出身動向としては、看護学科以外では、中国地方出身者割合は、やや減少傾向にある。また、県内出身者の2004年度の割合を2002年度と比較すると、地域福祉学科は両年とも高く、看護学科は2004年度で増加、幼児教育学科では減少している。

以上の具体的数値は、以下のようになる。

中国地方出身者割合動向（うち県内出身者）

表1 2004年度出身地別学生数の割合（括弧内は%）

	岡山県	中国（岡山除）	四国	九州・沖縄	兵庫	その他	無記入	合計
看護1年	9(14.3)	15(23.8)	7(11.1)	6(9.5)	17(27.0)	9(14.3)		63
看護2年	12(20.7)	11(19.0)	9(15.5)	5(8.6)	18(31.0)	2(3.4)	1	58
看護3年	16(22.2)	16(22.2)	8(11.1)	7(9.7)	18(25.0)	7(9.7)		72
幼教1年	3(6.5)	13(28.3)	10(21.7)	8(17.4)	8(17.4)	4(8.7)		46
幼教2年	8(16.3)	16(32.7)	9(18.4)	3(6.1)	8(16.3)	5(10.2)		49
地福1年	10(18.2)	21(38.2)	8(14.5)	8(14.5)	6(10.9)	2(3.6)		55
地福2年	12(22.2)	14(25.9)	8(14.8)	10(18.5)	7(13.0)	3(5.6)		54
合計	70(100.0)	106(100.0)	59(100.0)	47(100.0)	82(100)	32(100)	1	397

・看護学科

39.4% (13.6%) → 40.7% (19.1%)

・幼児教育学科

48.2% (16.7%) → 41.4% (11.4%)

・地域福祉学科

60.3% (22.4%) → 52.2% (20.2%)

(2)他校併願状況

① 他校併願率

1) 学科・学年別併願状況

学科・学年別併願状況は、幼児教育学科で他校併願率が最も高く、ついで看護学科であった。地域福祉学科では、1、2年生とも併願者と非併願者がほぼ半数ずつである。(以上、表2参照)

2) 入試種別併願状況

入試種別を一般入試とその他(推薦等)に分け、在学生が受験した入試種別ごとの併願状況を分析した。在学生のうち、一般入試合格者は、看護学科1、3年生、幼児教育学科2年生で100%併願しており、その他の学科・学年でもほぼ併願しているとみてよい。また、一般入試以外の合格者も、看護学科2年生を除いて、すべての学科で20%強が併願している。(以上、表3参照)

②他校併願者の併願校種

一般入試合格者のうち、他校併願者は、四年制大学、短期大学、専門学校のどの養成機関を併願したのであろうか。この点については、2002年度調査と今回の調査では、次のような変化がみられ

表2 2004年度学科・学年別他校併願者数とその割合(括弧内は%)

	他校を併願	併願しなかった	無記入	合計(度数)
看護1年	38(60.3)	24(38.1)	1	63
看護2年	26(44.8)	32(55.2)		58
看護3年	42(58.3)	29(40.3)	1	72
幼教1年	30(65.2)	16(34.8)		46
幼教2年	29(59.2)	20(40.8)		49
地福1年	27(49.1)	28(50.9)		55
地福2年	27(50.0)	26(48.1)	1	54
合計	219	175	3	397

表3 2004年度入試種別併願者数とその割合(括弧内は%)

	他校を併願	併願しなかった	無記入	合計(度数)
看1・一般	30(100.0)			30
看1・その他	8(24.2)	24(72.7)	1	33
看2・一般	22(91.7)	2(8.3)		24
看2・その他	4(11.8)	30(88.2)		34
看3・一般	29(100.0)			29
看3・その他	12(28.6)	29(69.0)	1	42
幼1・一般	26(96.3)	1(3.7)		27
幼1・その他	4(21.1)	15(78.9)		19
幼2・一般	21(100.0)			21
幼2・その他	8(28.6)	20(71.4)		28
地福1・一般	19(90.5)	2(9.5)		21
地福1・その他	8(23.5)	26(76.5)		34
地福2・一般	18(94.7)	1(5.3)		19
地福2・その他	9(25.7)	25(71.4)	1	35
合計	218	175	3	396

\*その他：一般入試以外の推薦入試等合格者

た。

#### 四年制併願割合

看護学科 71.9%→74.9% 増加傾向  
 幼児教育学科 61.1%→45.2% 減少傾向  
 (学年によってばらつきが多い)  
 地域福祉学科 58.7%→55.2% やや減少

#### 短期大学併願割合

看護学科 67.2%→54% 減少傾向  
 幼児教育学科 80.6%→86% 増加傾向  
 地域福祉学科 65.2%→68.1% ほぼ同じ

#### 専門学校併願割合

看護学科 57.8%→61.2% やや増加  
 幼児教育学科 4.0%→3.7% 低め変わらず  
 地域福祉学科 15.2%→5.1% 減少傾向

つまり、看護学科では、四年制併願と専門学校併願に増加がみられ、短大併願が減少している。看護志望の学生の傾向として、短大から四年制もしくは専門学校へ志望が変化している様子が窺える。

幼児教育学科では、四年制大学への志望が1999年度から増加していたものの、この2,3年は学年間で増減が著しく、かわって短期大学への志望者の増加しているところから、受験者層の変化のき

ざしが推察できる。

また、地域福祉学科では、四年制併願、短大併願については大きな変化はないが、専門学校併願者が減少している傾向が明らかである。

以下に、今回の調査結果を元に、四年制大学、短大、専門学校のそれぞれの併願割合についてくわしく述べる。

#### 1) 入試種別にみた四年制大学併願割合

2004年時点の在学生では、看護学科、地域福祉学科において、一般入試合格者のうちの過半数が四年制大学を受験している。幼児教育学科では、2年生は過半数が四年制大学を受験しているが、1年生の割合が低くなっている。

2002年度調査の一般入試合格者の四年制大学併願率は、先述したように、看護学科71.9%、幼児教育学科61.1%、地域福祉学科58.7%であった。今回調査では、看護学科74.9%、幼児教育学科45.2%、地域福祉学科55.2%であり、看護学科では、2002年度同様、一般入試合格者の四年制大学併願率が高い。今回、2年生でやや低いものの、1,3年生は2002年度よりも増加している(76.7%、89.6%)。幼児教育学科では、2004年時点で、2年生57.1%から1年生33.3%へと四年制大学併願率が下がっている。同学科では、学科独自で1999年度(19期生)から毎年行っている調査によると、四年制大学受験率が年々増加していた(19期生の

表4 2004年度入試種別四年制大学併願者数とその割合(括弧内は%)

	四年制併願	併願しなかった	無記入	合計(度数)
看1・一般	23(76.7)	7(23.3)		30
看1・その他	2(6.1)	30(90.9)	1	33
看2・一般	14(58.3)	10(41.7)		24
看2・その他		34(100.0)		34
看3・一般	26(89.7)	3(10.3)		29
看3・その他	2(4.8)	39(92.9)	1	42
幼1・一般	9(33.3)	18(66.7)		27
幼1・その他		19(100.0)		19
幼2・一般	12(57.1)	9(42.9)		21
幼2・その他	1(3.6)	27(96.4)		28
地福1・一般	11(52.4)	10(47.6)		21
地福1・その他		34(100.0)		34
地福2・一般	11(57.9)	8(42.1)		19
地福2・その他	2(5.7)	32(91.4)	1	35
合 計	113	280	3	396

\*その他：一般入試以外の推薦入試等合格者

32%→22期生で68%) が、23期生で50%に減少した。今回の調査においても、2年生(24期生)で再び57.1%と増加したが、1年生(25期生)でまた約34%と減少しており、変動期の様相をみせている。地域福祉学科の一般入試合格者の四年制併願率の学科平均55.2%は、2002年度調査時の約58.7%とほぼ変わらないが、2年生から1年生へとやや割合が低くなってきている。

また、一般入試以外の合格者の併願については、2002年度調査では、看護学科13.4%、幼児教育学科および地域福祉学科は5%以下であった。今回、どの学科も学科平均は5%を下回っている。(以上、表4参照)

## 2) 入試種別にみた短期大学併願割合

今回の調査では、幼児教育学科で、他の短期大学併願の割合が高い。ついで、地域福祉学科である。

2002年度調査の一般入試合格者の短期大学併願率は、先述したように、看護学科で67.2%、幼児教育学科で80.6%、地域福祉学科で65.2%であっ

た。今回の調査では、一般入試合格者のうち、看護学科54%、幼児教育学科86%、地域福祉学科68%であり、看護学科で減少しており、幼児教育学科でやや増加していることがわかる。また、地域福祉学科は、学科平均は2002年度よりやや増加しているが、1年生だけみると、57.1%と減少している。

また、本学では、一般入試以外の入試については、専願制をとっているにもかかわらず(看護学科の特別選抜入試をのぞく)、幼児教育学科と地域福祉学科では、一般入試以外の合格者のそれぞれ平均23・1%、14.5%が、短大を併願していることがわかる。一般入試以外の合格者の短大併願の状況は、02年度の調査でも同様であり、それぞれ18.4%、16.3%であった。(以上、表5参照)

## 3) 入試種別にみた専門学校併願割合

2002年度調査の一般入試合格者の専門学校併願率は、先述したように、看護学科57.8%、幼児教育学科約4%、地域福祉学科15.2%であり、看護学科在学生の併願率が高かった。

表5 2004年度入試種別短期大学併願者数とその割合(括弧内は%)

	短大を併願した	併願しなかった	無記入	合計(度数)
看1・一般	11(36.7)	19(63.3)		30
看1・その他	2(6.1)	30(90.9)	1	33
看2・一般	16(66.7)	8(33.3)		24
看2・その他	2(5.9)	32(94.1)		34
看3・一般	17(58.6)	12(41.4)		29
看3・その他	4(9.6)	37(88.0)	1	42
幼1・一般	22(81.5)	5(18.5)		27
幼1・その他	4(21.1)	15(78.9)		19
幼2・一般	19(90.5)	2(9.5)		21
幼2・その他	7(25.0)	21(75.0)		28
地福1・一般	12(57.1)	9(42.9)		21
地福1・その他	6(17.6)	28(82.4)		34
地福2・一般	15(78.9)	4(21.1)		19
地福2・その他	4(11.4)	30(85.7)	1	35
合 計	141	252	3	396

\* その他：一般入試以外の推薦入試等合格者

今回の調査でも、看護学科の一般入試合格者の専門学校併願率は、2年生を除いて、50-60%台にのぼっている。幼児教育学科では、全国的に専門学校自体が姿を消していつていることもあってか、その率は相変わらず低い。また地域福祉学科の一般入試合格者の併願は、各学年に1人ずつであり、減少している。

また、一般入試合格者以外の在學生においても看護学科の専門学校併願率は他学科に比べて高く、平均15.3%であった。2002年度調査では、看護学科の一般入試以外の合格者の専門学校の併願率は四年制大学の併願率とほぼ同じであった(13.4%)が、今回の調査では、四年制大学併願は減り(3.6%)、専門学校併願については依然高いという結果であった。(以上、表6参照)

### (3)在學生の第一志望校種

第一希望の養成機関を問うた回答では、一般入試合格者では、幼児教育学科1年生をのぞく全ての学年・学科で国公立四年制大学を第一志望としており、また、一般入試合格者以外の在學生では、全ての学年・学科で本学を第一志望としていた。

一般入試合格者が国公立四年制大学を第一志望とする割合は、2002年度調査、2004年度調査を通

じて特に看護学科に多く、2002年度調査で、看護学科71.4%、幼児教育学科54.3%、地域福祉学科50.0%であり、2004年度の調査で、看護学科79.3%、幼児教育学科41%、地域福祉学科47.8%であった。

二つの調査を比較すると、看護学科では2002年度調査より国公立四年制大学志望者が一層増加しているのに対して、幼児教育学科は減少しており、2004年度調査では、特に1年生の国公立四年制希望割合が低くなっていることがわかる(2年生52.4%→1年生29.6%)。地域福祉学科は、前回とほぼ同様である。

一般入試合格者以外の在學生の国公立四年制大学志望割合は、2002年度調査では、看護学科で9.4%、幼児教育学科で5.6%、地域福祉学科で20.5%であったが、今回はそれぞれ、13.7%、6.0%、2.9%であった。地域福祉学科で減少傾向が著しい。

また、本学を第一志望とする在學生の割合は、入試種別にかかわらず2002年度調査よりも2004年度調査の方が高くなっており、特に、地域福祉学科の一般入試合格以外の在學生の本学第一希望者の増加は著しい。地域福祉学科では、一般入試合格者でも、ことに1年生で増加している。(2年生10.5%→1年生42.9%)

表6 2004年度入試種別専門学校併願割合(括弧内は%)

	併願した	併願しなかった	無記入	合計
看1・一般	20(66.7)	10(33.3)		30
看1・その他	5(15.2)	27(81.8)	1	33
看2・一般	14(58.3)	10(41.7)		24
看2・その他	4(11.8)	30(88.2)		34
看3・一般	17(58.6)	12(41.4)		29
看3・その他	8(19.0)	33(78.6)	1	42
幼1・一般	2(7.4)	25(92.6)		27
幼1・その他		19(100.0)		19
幼2・一般		21(100.0)		21
幼2・その他	1(3.6)	27(96.4)		28
地福1・一般	1(4.8)	20(95.2)		21
地福1・その他	2(5.9)	32(94.1)		34
地福2・一般	1(5.3)	18(94.7)		19
地福2・その他	3(8.6)	31(88.6)	1	35
合 計	78	315	3	396

\* その他：一般入試以外の推薦入試等合格者

表7 2004年度第一志望校種別人数とその割合（括弧内は％）

	本学	国公立4大	国公短大（本学外）	私立四大	私立短大	専門学校	無記入他	合計
看1・一般	3(10.0)	24(80.0)	2(6.7)	1				30
看1・その他	26(78.8)	5(15.2)			1		1	33
看2・一般	3(12.5)	18(75.0)	3(12.5)					24
看2・その他	21(61.8)	8(23.5)	1(2.9)			4		34
看3・一般	1(3.4)	24(82.8)	3(10.4)	1				29
看3・その他	34(81.0)	1(2.4)	6(14.2)	1				42
幼1・一般	9(33.4)	8(29.6)	8(29.6)				2	27
幼1・その他	17(89.4)	1(5.3)	1(5.3)					19
幼2・一般	5(23.8)	11(52.4)	5(23.8)					21
幼2・その他	25(89.3)	2(7.1)			1			28
地福1・一般	9(42.9)	9(42.9)	3(14.2)					21
地福1・その他	34(100.0)							34
地福2・一般	2(10.5)	10(52.6)	6(31.6)			1		19
地福2・その他	30(85.7)	2(5.7)	2(5.7)			1		35
合 計	219	123	40	3	2	6	3	396

これらの動きに沿う形で、第一志望として国公立短大を希望している学生割合にも両年度で変化がみられ、本学一般入試合格者のうち、国公立四年制大学を希望する学生が多い看護学科で短大希望者が減少しており（14.0％→9.9％）、幼児教育学科ではほぼ変わらず（25.7％→26.7％）、本学希望者が増加している地域福祉学科1年生で減少する結果となっている（23.9％→22.9％、1年生14.2％）。（以上、表7参照）

2002年度から2004年度にかけての動向の特徴をまとめると下のようになる。

#### 一般入試合格者の国公立四年制志望割合の変化

看護学科 71.4％→79.3％ 増加傾向  
 幼児教育学科 54.3％→41.0％ 減少傾向  
 地域福祉学科 50.0％→47.8％ ほぼ変わらず

#### 一般入試合格者の本学志望割合の変化

看護学科 6.3％→8.6％ ほぼ変わらず  
 幼児教育学科 17.1％→28.6％ 増加傾向  
 地域福祉学科 19.6％→26.7％ 増加傾向

#### 一般入試合格者外の本学志望割合の変化

看護学科 76.6％→73.4％ ほぼ変わらず  
 幼児教育学科 83.3％→89.4％ やや増加傾向  
 地域福祉学科 67.1％→92.6％ 増加傾向

#### (4)本学四年制化に関する在学生の希望度

本学の将来構想のひとつとして四年制化が考えられる。そこで問題になるのが、果たして受験者をどのくらい呼べるのかという予想である。

四年制化した場合、受験者層の変化はもちろん想定できるものであるが、先の調査からも明らかに、現時点の在学生にも潜在的な四年制願望は多いと見受けられる。

今回の調査では、この点から、本学が四年制化したら入学を希望するのか、また、センター入試受験者は現時点でどのくらいいるのか、という二つの項目を設けていた。それぞれの項目ごとに、以下に結果を述べる。

#### ① 本学四年制化を在学生は希望するか

この項目については、2002年度の調査では、看護学科で57.3％、幼児教育学科と地域福祉学科で28.4％の在学生在が、本学が四年制であっても希望すると答えていた。2004年度の同調査では、看護学科で56％、幼児教育学科で29.5％、地域福祉学科で34.9％となっており、全体的には、以下に示したようにほぼ変わらない。（以上、表8参照）

#### 本学四年制化に対する在学生の希望割合の変化

看護学科 57.3％→56.0％ ほぼ変わらず  
 幼児教育学科 28.4％→29.5％ ほぼ変わらず  
 地域福祉学科 28.4％→34.9％ やや増加傾向

表8 2004年度本学四年制希望者数とその割合（括弧内は％）

	希望する	希望しなかった	わからない	合計
看護学科	108(56.0)	27(14.0)	58(30.0)	193(100.0)
幼児教育	28(29.5)	34(35.8)	33(34.7)	95(100/0)
地域福祉	38(34.9)	23(21.1)	48(44.0)	109(100.0)
	174	84	139	397(100.0)

ただし、2004年度調査では、看護学科の一般入試合格者で、3年生31％→2年生46％→1年生63％と希望者が増加しており、一般入試合格者以外の在学生の四年制希望者の割合は、さらに高くなっていた（63.3％）。地域福祉学科でも、一般入試合格者の48.7％が希望している。

## ② センター入試受験

センター入試に関しては、2002年度調査では、調査全体で受験率が45％、未受験率が54.7％であった。2004年度調査では、受験率が約50.5％、未受験率が49.2％であり、受験者の割合がやや高くなっていることがわかった。

また、一般入試合格者においては、2002年度調査では、看護学科が80.2％、幼児教育学科72.2％、地域福祉学科72.1％がセンター入試を受験してい

たが、2004年度調査では、それぞれ、95％、72.2％、80.2％であり、看護学科と地域福祉学科で増加している。（学年別については表9参照）

## (5) 本学への志望決定時期

本学への志望決定時期については、2004年度調査において、グラフ1で示したような時期分類で調査した。

グラフ1に示したように、看護学科で本学志望を決定した時期として一番高いのは、高3の9月（15％）、ついで10月（13％）である。また、三番目に高いのが卒業後で、10.9％の学生に当たり、決定時期は、三学科中、一番遅い。これは、高等学校既卒者の受験生が多い看護学科の特徴を表していよう。幼児教育学科では、受験生のほとんどが高等学校在学者であることから、高3の7月、9

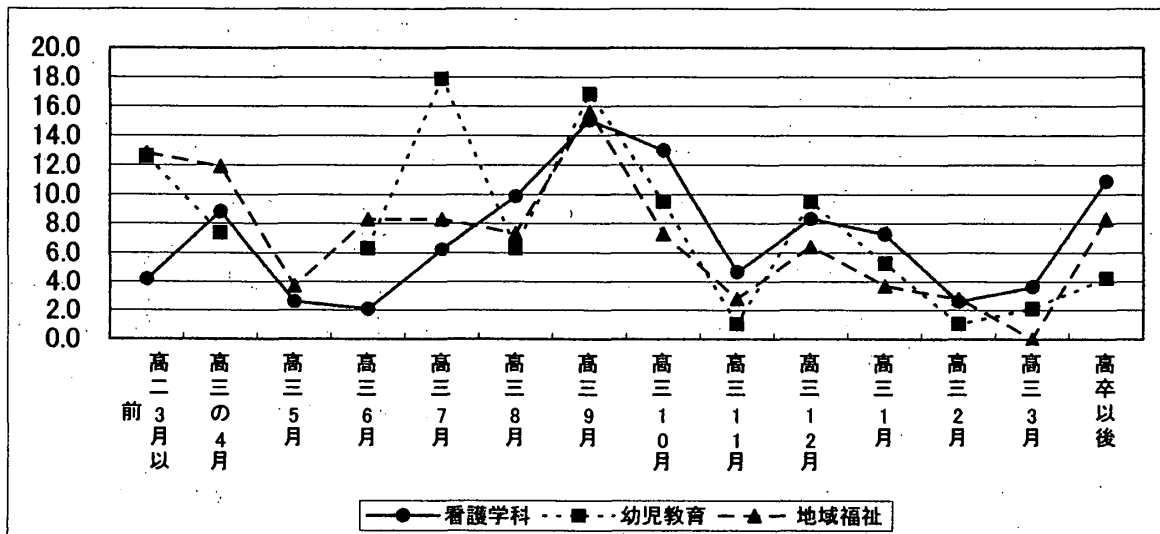
表9 2004年度センター入試受験者数とその割合（括弧内は％）

	受験	未受験	無記入	合計
看1・一般	29(96.7)	1(3.3)		30(100.0)
看1・その他	13(39.4)	20(60.6)		33(100.0)
看2・一般	22(91.7)	2(8.3)		24(100.0)
看2・その他	9(26.5)	25(73.5)		34(100.0)
看3・一般	28(96.6)	1(3.4)		29(100.0)
看3・その他	5(11.9)	37(88.1)		42(100.0)
幼1・一般	21(77.8)	6(22.2)		27(100.0)
幼1・その他	4(21.1)	15(78.9)		19(100.0)
幼2・一般	14(66.7)	6(28.6)	1(4.7)	21(100.0)
幼2・その他	6(21.4)	22(78.9)		28(100.0)
地福1・一般	16(76.2)	5(23.8)		21(100.0)
地福1・その他	9(26.5)	25(73.5)		34(100.0)
地福2・一般	16(84.2)	3(15.8)		19(100.0)
地福2・その他	8(22.9)	27(77.1)		35(100.0)
合 計	200	195	1	396

\* その他：一般入試以外の推薦入試等合格者



グラフ1 2004年度志望決定の時期別割合



月の割合が高く (17.9%、16.8%)、ついで高いのは高2の3月以前となっている。さらに、地域福祉学科は、高3の9月の割合が高いが、ついで、高2の3月以前 (12.8%)、高3の4月 (11.9%) であり、介護福祉士をめざす受験生は、早い時期に進路を決定している様子が伺える。

#### (6) 本学への志望動機

全体的傾向として、本学への志望動機として最も高いのは、全学科を通じて、「公立だから」である。ついで、「免許・資格がとれる」あるいは「専攻したい学科があった」、「(高校の) 進路指導による」が続く。逆に、「地元の大学だから」や「地理的条件」などについては、その割合が低い。これらの割合が低いのは、もちろん、岡山県出身の在学生が少ないという現状を反映しているもの

であるが、それはまた一方で、本学を選択した学生が、地元や地理的条件よりも、公立・免許資格・専門性を大きな志望動機としているということでもある。

各動機の割合を2002年度調査と2004年度調査と比較した。まず2002年度の調査では、ほとんどの学生が「公立だから」と答え (92.3%)、ついで「専攻したい学科があった」63.7%、「就職に有利」42%、「進路指導による」20.7%であった。2004年度調査では、「公立だから」が全体の86.4%を占め、ついで、2004年度調査で新たに設けた項目「免許・資格がとれる」が55.4%、そして「専攻したい学科がある」が55.2%であった。そのあとに、「就職を考えた」(45.8%)が続いている。

2004年度調査における学科および学科間の特徴は以下のようにあげられる。

まず、看護学科では、「就職」(29.5%) よりも

表10 2004年度本学在学生の志望動機別人数とその割合 (括弧内は%)

	地元大学だから	家族等からの勧め	進路指導	地理的条件	専攻希望	就職を考えた	公立だから
看護学科	24(12.4)	24(12.4)	60(31.1)	15( 7.8)	97(50.3)	57(29.5)	156(80.8)
幼児教育	10(10.5)	13(13.7)	33(34.7)	8( 8.4)	63(66.3)	59(62.1)	86(90.5)
地域福祉	10( 9.2)	22(20.2)	22(20.2)	12(11.0)	59(54.1)	66(60.6)	101(92.7)
合 計	44	59	115	35	219	182	343

	免許・資格	オープンキャンパス等	先輩・友人の勧め	地域が気に入った	何となく	その他
看護学科	72(37.3)	27(14.0)	10(5.2)	9(4.7)	28(14.5)	17(8.8)
幼児教育	69(72.6)	17(17.9)	4(4.2)	4(4.2)	8( 8.4)	9(9.5)
地域福祉	79(72.5)	23(21.1)	5(4.6)	9(8.3)	5( 4.6)	9(8.3)
合 計	220	67	19	22	41	35

「希望したい専攻」(50.3%)を志望動機とした学生割合が2002年度と同様に高く、次いで「公立だから」の割合が高い。

幼児教育学科は、三学科中で「希望したい専攻」であることを志望動機とした割合が一番高くなっており(66.3%)、公立・免許資格・専攻・就職が四大柱である。

地域福祉学科では三学科中「公立だから」の志望動機が最も高く(92.7%)、公立・免許資格・就職・専攻の順で4大柱となっている。

### 3. まとめ

今回の調査結果から、明確にいえることは、看護学科の四年制志望者が増加傾向にあることである。すでに2002年度調査でもその傾向が窺えたが、四年制大学併願者、第一希望校としての国公立四大選択者はいずれも増加している。また、本学が四大化した場合の本学志望者は、看護学科在学生の過半数を占める。したがって、看護学科では四年制への移行が課題であるといえよう。

また、反対に、不安定な動きをしているのが、幼児教育学科である。当該学科では、毎年、国立大学教育学部を併願している学生がおり、1998年から2001年にかけては、年々四年制大学併願率が増加していた。しかし、今回の調査では、その併願率は、学年によって違いがみられる。近年の不況の中、就職に有利な保育士資格が取得できる学科は、全国の短大でも人気がある。この傾向が、短大併願者層の幼児教育学科選択率の増加に影響を及ぼしているとみられる。第一志望校として本

学を選択している在學生が増加傾向にあることから、その地盤を元に、幼児教育学科が今後どちらの受験者層をターゲットにしていかが課題になるう。

地域福祉学科では、2002年度から2004年度調査にかけて、あまり大きな動きはみられない。いずれの調査でも中国地方出身者割合が高く、また第一志望校として本学を選択している在學生が増加している点などから、三学科の中では、本学にしばって受験している在學生が一番高いと考えられる。志望決定の時期が他の二学科に比べて早いので、地元志向の本学志望者をターゲットにした高校訪問の時期などが検討課題になるう。

### 注

- 1 たとえば『大学徹底比較－マルチバンク2001.短大・専門学校編』(ベネッセ出版)では、本学が「資格取得のカリキュラムが充実」の点で中国・四国・九州地区1位、「就職支援が手厚い」点で同2位、「就職率」で同1位であることを紹介している。  
学生出身地については、後述の調査結果1)学生出身地を参照されたい。
- 2 この調査結果には反映されていないが、集計については、将来構想委員会委員以外から土井英子氏の協力を得た。
- 3 この調査は、2002年3月に『自己点検・評価報告書 第1回学生生活実態調査』(新見公立短期大学、学生生活委員会、自己点検・評価委員会編集)としてまとめられている。

## Summary

The planning committee of Niimi College investigated the entrance examination trends of our college in April, 2004. An investigation on students' life was done by the student affairs committee and the self evaluation committee in Niimi College in 2002. This report compares the two investigations, and reveals the students' trends of Niimi College's entrance examination.

As a result of an investigation on entrance examination to Niimi College, we came to understand that the number of students who wanted to come to Niimi College as their first choice is increasing in all the departments, and that in the Department of Nursing, the number of students who wanted to go to a four-year national university is increasing. We have also clarified that there are the three major motives: 1) being public, 2) providing license qualifications, and 3) being a professional training facility.